

定住自立圏構想

# 中心市宣言書

～ 圏域の一体となった発展のために ～



平成21年3月27日

日向市

# 中心市宣言

## ～ 圏域の一体となった発展のために ～

本格的な人口減少社会の到来により、地方においては、今後、急激な人口減少と少子高齢化の進行が予想されます。また、地方分権から地方主権への流れの中、地域が知恵を出し、創意工夫をしながら地域の実情に応じた自主的・自立的な地域づくりを進めることが強く求められています。

このような中、地方においては、地域の持つ固有の資源を活かした個性的で魅力溢れる地域づくりが不可欠であり、さらに、それをより効果的・効率的なものとするためには、単独市町村のみならず、広域的な連携により、それぞれの持つ地域資源を有機的にリンクさせ、相乗効果により魅力を向上させていくという視点も重要になります。

本市の現在の広域連携の取り組みとしては、宮崎県北部地域の2市5町2村、日向入郷圏域の1市2町2村による取り組みを推進しており、特に、本市と周辺の2町2村（門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村）からなる日向入郷圏域は、耳川・五十鈴川水系の豊かな森林資源に恵まれ、古くから文化・経済を同じくする生活文化圏として密接な関係を築き発展を遂げてきた、いわば運命共同体です。本圏域では圏域活性化のため、観光面などでの各種施策を実施するとともに、「日向東臼杵南部広域連合」の設立により、ごみ焼却施設及び火葬場を共同運営するなど、具体的な取り組みを行っているところです。

日向市は、歴史と伝統にはぐくまれ、豊かな自然環境にも恵まれた美しいまちです。また、県内随一の国際貿易港「細島港」とその周辺の広大な工業用地を擁し、後背地の豊かな森林資源とあわせると、非常に高い発展可能性を秘めており、今後、東九州自動車道や九州横断自動車道延岡線の整備が進めば、陸上・海上の交通アクセスが飛躍的に向上し、そのポテンシャルはさらに高まります。今後、このような陸上・海上の交通網に、日向入郷圏域を始めとする周辺自治体の有する豊かな森林資源や農畜産物等を流通させるとともに、福岡など、人口が集中する北部九州からの人の流れを創出することにより、真の「九州の扇の要」といえる九州の交流拠点地域としての発展を目指していきたいと考えています。

このような広域連携の取り組みをさらに進化させ、本市を中心とした周辺町村が一体となった定住自立圏を形成し、周辺町村との連携・交流を図りながら、圏域内の住民に対して積極的な各種サービスを提供することなどにより、圏域全体に必要な生活機能を確保し、将来にわたって安心して暮らし続けられる魅力ある地域づくりに資するため、日向市は、定住自立圏構想に基づく中心市となることをここに宣言します。

平成21年3月27日

宮崎県日向市長

黒木 健二

## 1. 都市機能の集積状況

- 本市では、JR日向市駅を核とする中心市街地を、日向入郷圏域の顔として位置づけ、JR日豊本線の連続立体交差事業と併せて、駅周辺土地区画整理事業、さらには商業集積事業を一体的に推進してきました。平成18年12月に開業した新しい日向市駅舎は、圏域の誇る耳川流域の豊かな森林資源である杉材をふんだんに使用した斬新なデザインとなっており、いわば日向入郷圏域のシンボルともいえる施設です。現在も、圏域住民の交流の場としての駅前広場などの整備が進められており、民間活力によるマンションの建設など、居住空間の創出も図られています。今後も、(仮称)日向市障がい者センターの整備など、様々な都市機能が集約されたコンパクトシティをコンセプトにしたまちづくりが進められます。また、本市には郊外型の大規模商業施設が複数あり、周辺町村の住民も多数訪れています。
- 医療分野においては、中核的な2次救急医療施設があり、圏域住民の安全・安心な暮らしを支えています。しかしながら、医師不足等により、2次救急医療体制の維持が大きな課題となっていることから、平成21年4月に、2次救急医療体制を補完する日向市初期救急診療所が開設されます。
- 教育分野では、本市には、県立高等学校が3校あり、周辺町村からも多数の高校生が通学しています。
- なお、高校生の通学手段としては、周辺市町村間を結ぶ生活路線バスが活用されていますが、同バスについては、高齢者の通院や買物などの重要な交通手段となっており、高齢化の進行が想定される中、公共交通機関としての生活バス路線の役割はますます重要になってきます。
- 本市は、県内でも有数の工業集積地域であり、市内の企業には、周辺町村の住民も多数就業しています。今後も、東九州自動車道の整備が進めば、重要港湾「細島港」とリンクした陸上・海上の交通アクセスが向上することにより、周辺工業用地への企業立地が期待されます。

### ■周辺町村の住民が利用している、または利用が見込まれる本市の主な施設

※ 市外住民の利用者数等をカウントしている施設については、備考の( )内に表示

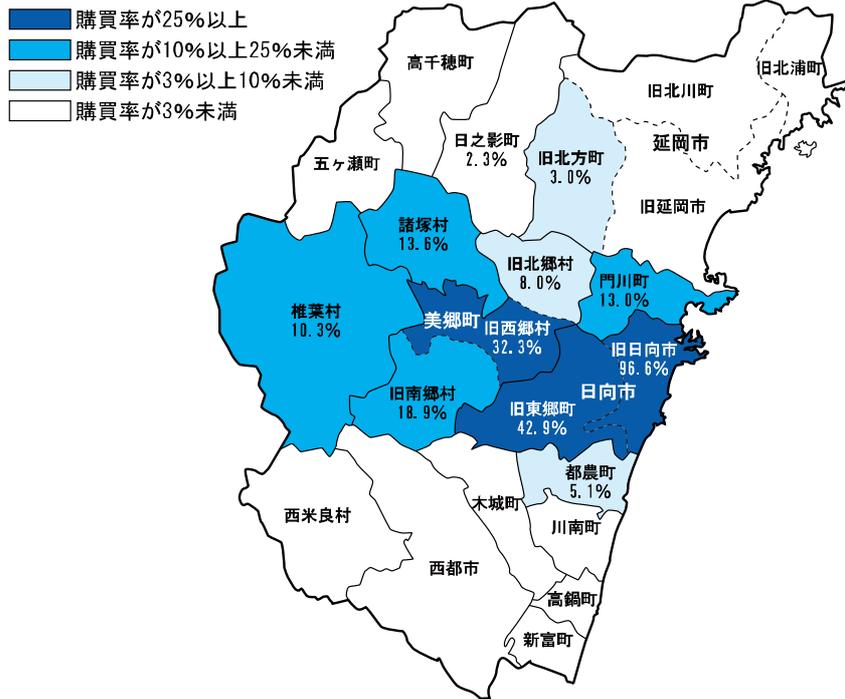
項 目	施 設 名	備 考	
医療・福祉	2次救急医療施設(県指定)	千代田病院	H20年救急搬送者数 879人 (うち市外 219人)
		和田病院	H20年救急搬送者数 463人 (うち市外 85人)
		日向市立東郷病院	H20年救急搬送者数 33人 (うち市外 3人)
	2次救急医療を補完する施設	日向市初期救急診療所	※H21年4月開設
	養護老人ホーム	ひまわり寮	H20年6月1日入所者数 60人 (うち市外 5人)
		鈴峰園	H20年6月1日入所者数 50人 (うち市外 18人)

項 目		施 設 名	備 考
医療・福祉	特別養護老人ホーム	伊勢の郷	入所者数 60人 (うち市外 46人)
		永寿園	入所者数 54人 (うち市外 9人)
		立縫の里	入所者数 50人 (うち市外 0人)
		牧水園	入所者数 50人 (うち市外 2人)
	障がい者施設	(仮称)日向市障がい者センター	※H22年度建設予定
教育	高等学校	県立日向高等学校	普通科、外国語科
		県立富島高等学校	商業科、会計科、経営情報科、国際経済科、生活情報科
		県立日向工業高等学校	機械科、電気科、建築科
職業訓練	日向地区中小企業技能センター(日向地区高等職業訓練校併設)	H19年度利用者数 17,400人 ※企業の即戦力となる人材や地域産業を支える人材の育成	
文化・娯楽	文化・歴史施設	日向市文化交流センター	H19年度入場者数 112,037人
		東郷町地区文化センター	H19年度入場者数 4,645人
		日向市中央公民館	H19年度入場者数 75,364人
		若山牧水記念文学館	H19年度入場者数 6,102人
		美々津歴史民俗資料館	H19年度入場者数 5,188人
		美々津軒	H19年度入場者数 9,190人
		美々津まちなみセンター	H19年度入場者数 12,304人
		細島みなと資料館	H19年度入場者数 583人
		関本勘兵衛家住宅	H19年度入場者数 138人
	スポーツ施設	お倉ヶ浜総合公園	H19年度入場者数 110,891人
		大王谷運動公園	H19年度入場者数 51,858人
		日向市体育センター	H19年度入場者数 37,642人
		日向市武道館	H19年度入場者数 21,512人
	図書館	日向市立図書館	蔵書数(H20.4.1) 138,135冊 登録者数(H20.4.1) 32,472人 (うち市外 2,727人) H19年度貸出冊数 250,253冊 (うち市外 6,747冊)
	温泉施設	日向サンパーク温泉	H19年度入場者数 134,701人
消費	中心市街地の商業集積	十街区パティオ	5店舗
		8街区リーフギャラリー	8店舗
		モビール13	7店舗
	大規模商業施設		店舗面積1万㎡以上 2施設
交通	駅 (JR日豊本線)	日向市駅	H19年度乗降者数 2,543人/日
		財光寺駅	H19年度乗降者数 535人/日
		南日向駅	H19年度乗降者数 77人/日
		美々津駅	H19年度乗降者数 269人/日
	路線バス	宮崎交通(株)	H19年度利用者数 355,396人
高速道路	東九州自動車道日向IC	※H22年度完成予定	

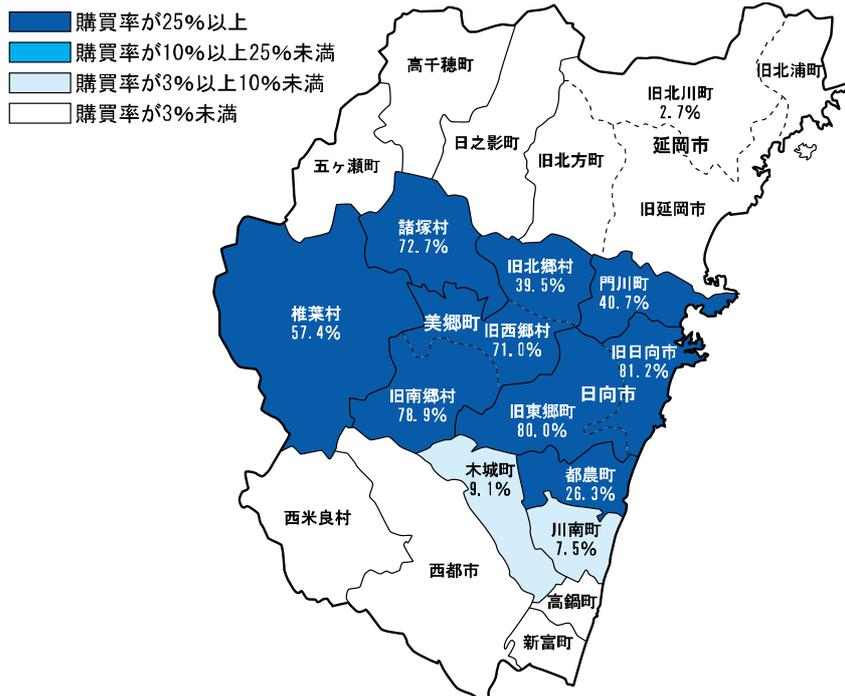
項 目		施 設 名	備 考
広域施設	日向東臼杵南部 広域連合	ごみ焼却施設	H19年度処理量 31,208トン (うち市外 8,078トン)
		日向地区斎場東郷霊苑	H19年度火葬件数 1,035件 (うち市外 390件)

■本市の商圈構造の状況（「平成15年度 宮崎県小売商業実態調査」より）

○食料品の購買率



○婦人服等の購買率



## 2. 想定する連携項目

周辺町村と連携する項目としては、主に次のような分野を想定しています。

### (1) 生活機能の強化に係る政策分野

誰もが住み続けたいと思う定住自立圏を形成していくためには、生活機能の充実が不可欠なことのできない重要な要素となります。圏域住民の生活機能の強化を図るため、次に掲げる政策分野に連携して取り組みます。

#### ① 医療

二次救急医療体制や在宅当番医制度の維持と、二次救急医療体制を補完する「日向市初期救急診療所」の運営に連携して取り組みます。

#### ② 福祉

介護認定審査や障害者給付認定審査など、福祉サービスの提供に係る業務等に連携して取り組みます。

#### ③ 産業振興

産業振興分野については次に掲げる項目について連携して取り組みます。

- 企業の即戦力となる人材や地域産業を支える人材の育成
- 耳川流域の誇る森林資源の付加価値を高める取り組み
- へべす、完熟キンカン、活きしめカツオなど、農畜水産物における圏域ブランドの確立
- 山・川・海などの豊かな自然環境を活かした広域観光への取り組み
- 企業誘致の推進による新たな雇用の創出
- 重要港湾「細島港」を活用した物流体制の強化・充実

#### ④ 環境

- カーボンオフセットを取り入れた森林の保全など、森林の持つ公益的機能の維持・強化に連携して取り組みます。
- 広域的なごみ処理施設や一般廃棄物最終処分場の管理運営及び、バイオマス資源の有効利活用など、資源循環型社会の構築に向け連携して取り組みます。

#### ⑤ 消防・防災

災害時の応援体制や広域再編による消防体制の強化など、消防・防災体制の充実に連携して取り組みます。

#### ⑥ その他

火葬場の管理運営に連携して取り組みます。

### (2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

定住自立圏が有機的に機能していくためには、行政だけではなく、圏域住民や企業、団体といった様々な主体の連携が欠かせません。また、圏域外からの人の流れを創出す

るという視点も重要になります。圏域市町村間の結びつきやネットワークを強化し、さらには、圏域外住民との交流を促進するため、次に掲げる政策分野に連携して取り組みます。

① 地域公共交通

圏域市町村間を結ぶ公共交通機関である生活バス路線の維持・強化に連携して取り組みます。

② 道路等の交通インフラの整備

高速道路網（東九州自動車道、九州横断道延岡線）や、圏域市町村間を結ぶ幹線国道の整備促進に連携して取り組みます。

③ 地域の生産者や消費の連携による地産地消

圏域の農畜水産物等を扱う市をJR日向市駅前広場で開催するなど、生産者や消費者が連携した地産地消への取り組みや農商工連携による取り組みを促進します。

④ 地域内外の住民との交流・移住促進

森林の保全活動や農産漁村での宿泊体験、自然体験など、圏域内外の住民の交流促進に連携して取り組みます。

⑤ その他

上記のほか、結びつきやネットワークの強化に関する分野に連携して取り組みます。

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

形成された定住自立圏が将来に渡って健全に持続していくためには、圏域の将来の姿を見据えたマネジメント能力といったものが不可欠となります。圏域を牽引する人材を確保し育成するために、次に掲げる政策分野に連携して取り組みます。

① 人材の育成・交流

職員の政策能力を高めるために、圏域内市町村職員の人材育成や交流に連携して取り組みます。

② 外部人材の登用

外部の専門的な人材の登用に努めます。

③ その他

上記のほか、圏域マネジメント能力の強化に関する分野に連携して取り組みます。

### 3. 本市への通勤通学割合が0.1以上の市町村の名称

本市に対して従業または通学する就業者数及び通学者数を、常住する就業者数及び通学者数で除して得た数値が0.1以上である市町村は、次の2町です。

自治体名	常住する就業者数及び通学者数 (自宅就業するものを除く) (A)	本市に対して従業または通学する 就業者数及び通学者数 (B)	通勤通学者割合 (B/A)
門川町	8,480人	2,423人	0.29
美郷町	2,361人	387人	0.16

### 4. その他連携する意思を有する市町村の名称

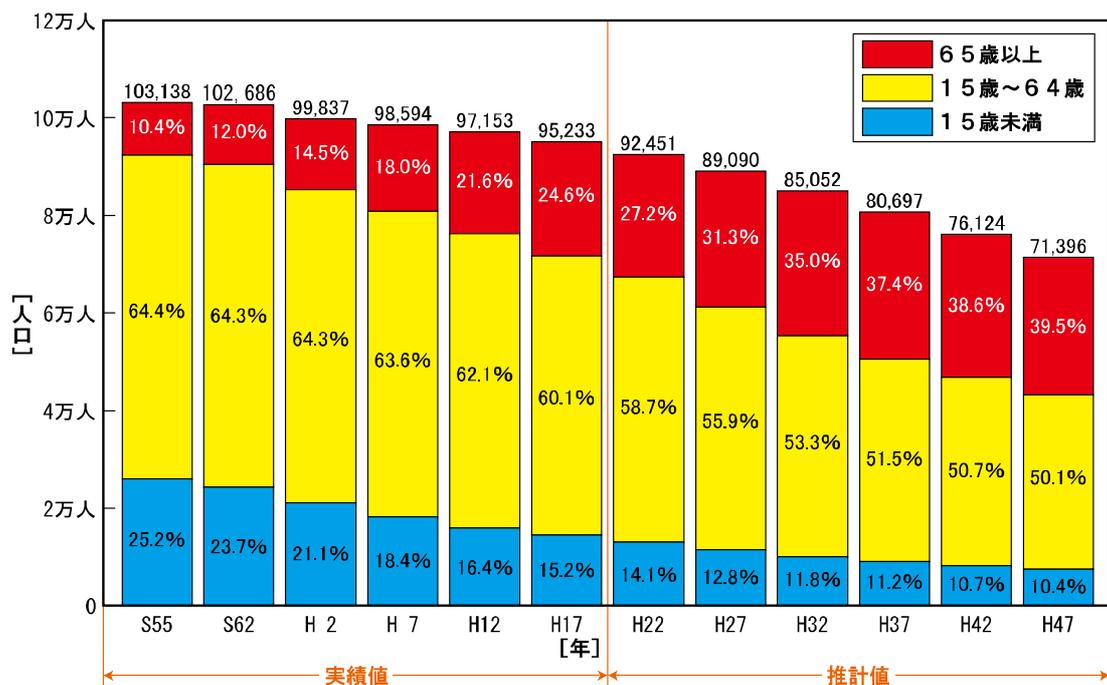
本市への通勤通学割合は0.1未満ですが、定住自立圏の形成に向け、連携して取り組む意思を有する市町村は、次の2村です。

- 諸塚村
- 椎葉村

### 5. 日向入郷圏域（日向市、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村）の人口の動向

#### (1) 人口の推移

下のグラフは、日向入郷圏域の人口の推移を、年齢3区分により示したものです。平成22年度からの数値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によるものですが、今後、急激な人口減少とともに高齢化が進行すると予測されています。圏域市町村の連携による定住促進への取り組みが強く求められます。



■資料：平成17年までは国勢調査人口  
平成22年度以降は国立社会保障・人口問題研究所（出生中位・死亡中位推計）H20年12月推計

## (2) 性別、年齢毎の人口分布

下のグラフは、性別、年齢毎の人口分布を検証するために、日向入郷圏域と全国の人口ピラミッドの形を比較したものです。年齢毎の人口分布の状況から、高校卒業時から40代半ばの年代が圏域外に流出していることがわかります。今後、本圏域において定住自立圏を形成していくためには、若者に魅力のある雇用の場の創出が最重要課題となります。

